

展覧会名

手にとる展 while feeling

会期

2023年6月09日(金) - 6月25日(日)
OPEN pm 1-7 金・土・日曜
全日予約制

出展作家

今井祝雄
藤本由紀夫
大西伸明
笹岡 敬
白石晃一
ニシジマ・アツシ
池田 慎
菊池和晃
山本紗佑理
他

会期中イベント

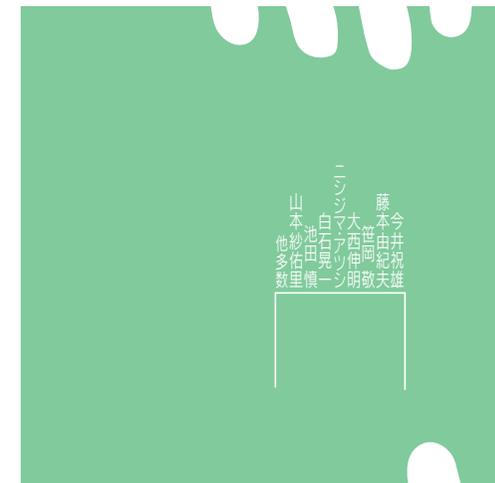
出展作家在廊日を設けます。
詳細は後日ギャラリーホームページに掲載します。

予約について

+1art のホームページからお申し込いただけます。

6月	月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30		

- ① 13:00-14:00
- ② 14:00-15:00
- ③ 15:00-16:00
- ④ 16:00-17:00
- ⑤ 17:00-18:00
- ⑥ 18:00-19:00



人間は視覚に頼って生きていますが、現実をありのままに見ているわけではありません。ありのままの現実(それがあるとして)は情報量が多すぎて処理しきれないので、必要な情報を選択することで初めて対象が現れます。

他方で触覚は身体に触れるモノを感知するので、情報を選択する前に感覚が働きます。それだけダイレクトに対象に接しているから、触感強いリアリティを持ちます。それではっきり理解できたときに「手にとるようにわかる」と言うのでしょうか。しかし、ふつう展覧会場場で作品に触れることは禁止です。不特定多数が訪れる場所では、作品に触れることができる展覧会を開くのは極めて難しい。一方で作品に関心を持ったら、もっと知りたくなるのは当然です。一定の条件下で作品に触れることもできる展覧会ができないか？手にとる展の企画はこうして始まりました。

本展は通常と異なり、作品は殆ど展示しません。鑑賞者はリストの中から作品を選んで各自の机で一点一点作品を見ます。図書館でリクエストして、出された本を閲覧するイメージです。

なお本展の参加作家は9名ですが、その他にアントニ・タピエス、やのべけんじ 等々ギャラリーに委託された立体・平面作品も出品します。なかなか見られない作品の細部を、この機会に心ゆくまで鑑賞いただければ幸いです。



今井祝雄 IMAI Norio

1946年大阪市生まれ。美術家。1960年代より造形や映像作品を発表。1965年より1972年の解散まで具体美術協会に参加。主著に〈白からはじまる一私の美術ノート〉ほか、近刊に〈余白とフレーム〉(ともに水声社)。作品集に〈タイムコレクション〉(NORIO IMAI)(Axel and May Vervoordt Foundation)などがある。

【image:《音の磁場》2023】



大西 伸明 ONISHI Nobuaki

1998 京都市立芸術大学大学院美術研究科版画修了
2013 五島記念文化財団美術新人賞受賞による海外研修としてドイツに滞在

2023 岡崎和郎・大西伸明「Born Twice」
(MA2 Gallery /東京)

2023 個展「光体」(MA2 Gallery /東京)

2021「VACUUM- 空色(からいろ)の部屋」Operation Table (福岡)

2020「京都の美術250年の夢 第1部～第3部 総集編 江戸から現代へ」(京都京セラ美術館)

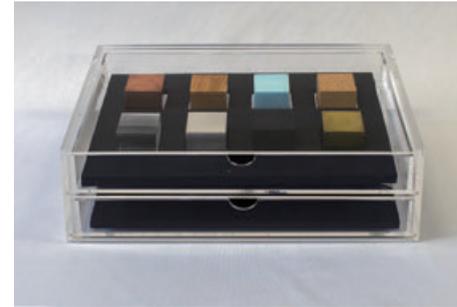
2019 個展「鏡を通り抜けて彼女は何をみたのか」
(MA2 Gallery /東京)

2019 個展「大西伸明: 投影と影取」(ギャラリーあしや シューレ/兵庫)・ギャラリーノマル/大阪)

2016 Aki Eimizu & Nobuaki Onishi」(Galerie Nicola von Senger AG /スイス)

2016「Art Meets 02 大西伸明 | 相川勝」(アーツ前橋 /群馬)

【image : 《Egg》2018】



藤本由紀夫 FUJIMOTO Yukio

1950年生れ。大阪芸術大学音楽学科卒。70年代よりエレクトロニクスを利用したパフォーマンス、インスタレーションを行う。80年代半ばよりサウンド・オブジェの制作を行う。2001、2007年ヴェニスビエンナーレ参加。

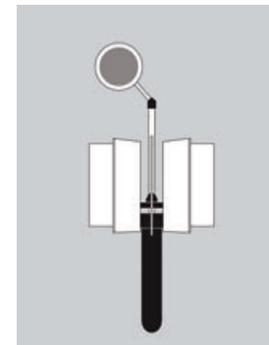
【image : 《CUBE》2023】



ニシジマ・アツシ NISHIJIMA ATSUSHI

1965年 京都市生まれ。大阪芸術大学 音楽学科 音楽工学専攻卒業。岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー(IAMAS)修了。80年代後半より実験音楽の制作、ライブ・エレクトロニック・ミュージックによる演奏を始める。その後は、音が持つ多様な側面から発想した"聴視覚"作品の制作も始める。

【image:《Whatever Will Be, Will Be》2021 (photo by 林口哲也)】



菊池和晃 KIKUCHI Kazuaki

美術家。1993年 京都生まれ。京都市立芸術大学大学院修了。京都を拠点に活動。

肉体を酷使することで稼働する自作の装置で美術史から引用したイメージを生産する。

【image : 《空気清浄機》2023】



白石晃一 SHIRAISHI Koichi

金属造形やデジタルファブリケーションの技術を用い、コンピューターを組み込んだ可動型の彫刻を制作。パフォーマンス・観客参加型の作品を公共空間を中心に発表する。ファブラボ北加賀屋(2013～)を共同設立。

主な展覧会に、「平成美術：うたかたと瓦礫デブリ 1989-2019」(2021)「Osaka Canvas Project 2010」『ネオ生駒湯』おおさかカンヴァス推進事業採択作品(2011)「AMUSE ARTJAM 2007 in Kyoto」『GO WEST!』審査員特別賞(2007)などがある。

【image:《GLOBAL CITY SAMPLING DAY 2020》】



笹岡 敬 SASAOKA Tkashi

2023 個展 (CAS/大阪)

2022 個展 (CAS/大阪)

狂転体展 (かいじゅう未来計画/奈良)

狂転体展 (CAS /大阪)

狂転体展 (+1art /大阪)

2021 個展 (CAS /大阪)

2020 個展 (+1art /大阪)

2019 「WAVES & FREQUENCES ハンブルク・大阪
友好都市提携30周年記念ドイツ展」(フリー
ゼ・キュンストラーハウスハンブルグ/ドイツ)

2018 「固体-液体の臨界点はまだ発見されてない」(space WILLING N DEALING /ソウル)

2017 クロニクル、クロニクル! (CCOクリエイティブセンター/大阪)

2015 狂転体展 (CAS /大阪)

2012 日韓交流展 HistoricalParade;Images from elsewhere」(ソウル市美術館分館 /ソウル)

【image : 《Luminous 2023》部分 2023】



池田 慎 IKEDA Shin

1974 大阪生まれ 大阪在住

1998 大阪芸術大学芸術学部デザイン学科卒業

近年の個展

2022 美しい日々 (space31/神戸)

2022 うつくしい日々 (noie.cc /東京)

2021 トロフィー (studio J /大阪)

近年のグループ展

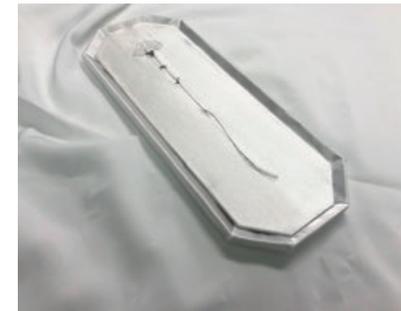
2023 ワンダーシュゲイズム (studioJ /大阪)

2023 飯田華子+池田慎 わたしたちのSDGs (釜晴れ/大阪)

2022 たべたらしめで (海月文庫/大阪)

2022 soft hope (+1art /大阪)

【image : 《蓬莱郷 アイスクリーム》部分 2022】



山本紗佑里 YAMAMOTO Sayuri

1994 三重県生まれ

2019 京都市立芸術大学大学院 美術研究科修士課程
工芸専攻染織 修了

近年の主な活動

2023 個展「ほごりの明滅」KUNST ARZT(京都)

2023 「Kyoto Art For Tomorrow-京都府新鋭選抜展」
(京都文化博物館/京都)

2022 「東九条アンサンブル」(東九条/京都)

2022 個展「まひるの凍星」kumagusuku SAS(京都)
他

【image : 《涅槃》部分 2022】